

委員理學博士 大 森 房 吉

震災豫防調査會長理學博士 菊池大麓殿

附言、左ノ一篇ハ故關谷委員ノ遺稿ニシテ有益ノモノニ
候故茲ニ相添候也但其中大地震數及平均年數等ハ著ク訂
正ヲ要スレドモ（本委員提出ノ日本地震史目錄ノ調査參
照）原ノ儘ヲ存シ候

日本大地震

故委員理學博士 關 谷 清 景 遺稿

此編ハ（明治廿六年）地震學講義ノ爲メニ編纂セシ者ニシテ未
タ完全ニハ之ナキモ日本地震史ノ下調ト見做シテ可ナリ猶之
ニ追加シテ地震史ノ材料ニ充ツベシ

小生先來理科大學ノ仕事トシテ近來ハ震災豫防調査會ノ一事
業トシテ地震研究ノ餘暇日本地震史ノ編纂ニ從事シ既ニ材料
許多蒐集シ原稿紙數百枚ニ及ベリ然レモ未ダ完全スルニ至
ラズ大成スル迄ハ猶二三年ヲ要スベシ去レバ此等ノ材料ニテ
製シタル日本大地震ノ統計表ハ完全ノ者トハ云フベカラザル
モ既ニ材料ノ大體ハ蒐集セシナレバ大ナル誤ハナカルベキ
ナリ

初メテ日本大地震ノ記錄ヲ作りシハ服部一三氏ナリ同氏ノ論
文ハ明治十一年アツヤチック、ソサイチ、オフ、ジャバンノ報告
中ニ記載セリ右ハ簡約ナレモ有益ナル論文ナリ日本大地震記
錄ノ初テ歴史ニ見ユルハ日本書記ニテ人皇第廿代允恭天皇即
位五年（第五世紀即西曆四百十六年）七月十四日地震ニ大内破
壞ストアルヲ以テ嚙矢トス乃千四百七十七年以前ノコナリ是
ヨリ前ノ地震ハ舊事記古事記ニ見ヘザレバ傳ハラザル由ナリ
第一ノ表（表ハ略ス）ヲ五世紀ヨリ今世紀ニ至ル千五百年間ノ
地震數ヲ世紀分ニシテ示ス今迄蒐集セシ材料ヲ總計スルニ人
畜家屋ノ損害又ハ土地陷落ノ明瞭ニアル地震ハ都合百廿一回
アリ乃平均十二年五ヶ月毎ニ大震アル割合ナリ又歴史ニ人畜
家屋ノ損害土地陷落ノ記事ナキモ地大ニ震フ又ハ大ニ地震ス
トアル者アリ此等ハ多分多少ノ損害アリシモノ或ハ大破損ア
リシ者ニアランカ詳細ノ記事ナキヲ以テ其強弱ヲ知ル能ハズ
過千五百年間ニ此種ノ地震二百三十七回アリ乃平均六年四ヶ
月毎ニ一回ノ割合ナリ又以上二種ノ地震ヲ合計スレバ過ル千
五百年間ニハ三百五十八回ノ大震アリ乃平均四年二ヶ月毎ニ
一回ノ地震アリシ割合ナリ此表ヲ閱スルニ種々ナルコトヲ見出
スベシ第一ニハ昔日ヨリ近世ニ大地震多キヲ是ナリ是ハ一ニ
ハ記錄ノ昔ニ在テハ不完全ナルガ故ナリ或ハ此ノ如キ表ハ益

ナシトノ感ヲ起サザルトモ云フ可カラズ然レハ猶之ヲ研究スレバ得ル所尠ナカラザルベシ

今一ツ注意スベキハ地震數ノ多寡ハ世ノ治亂并ニ文物ノ盛衰ニ關係アルト是ナリ語ヲ換ヘテ云ヘバ歴史記錄ノ完全ナルト不完全ナルトニ依ルナリ例ヘハ第八世紀ニ於テハ頓ニ増加スルヲ見ル其理由中ノ一ツハ第八世紀ハ乃チ奈良朝ニシテ文物ノ隆盛ナル時ナリ又九世紀ニハ地震數最モ多シ是同紀ハ奈良朝ニ引續キ文物盛ニ開ケ藤氏ト菅氏ト文學ヲ競ヒシ時ニシテ中古ニ於テ最モ文物ノ盛ニ發達シタル時ナレバナリ

此時代ニ撰集セラレシ書籍モ少カラズ此時代ニ類聚國史編纂セラレ其百七十一卷ハ災異部ナリ即チ允恭天皇五年(今ヲ去ルヲ千四百六十八年前)ヨリ光孝天皇仁和五年(今ヲ距ヲ九百九十八年)前ニ至ル四百七十二年間ノ地震ヲ載ス是實ニ地震歴史ノ濫觴ト云ベシ

十七世紀ニ至テ頓ニ地震數ノ増加スルヲ見ル是他ナシ十六世紀ノ終ハ慶長年間ニシテ關原ノ役アリシ頃ナリ十七世紀以後ハ徳川氏ノ治世ニシテ記録ノ最モ完全セル時代トナレバ地震數モ増加セシナラン乎十七世紀ノ初ヨリ本年迄ハ二百九十三年ナリ此間ニ四十六回ノ大震アリ(家屋人畜ノ損傷アル者)乃平均六年四ヶ月ニ一回ノ大震アリシ割合ナリ又本世紀九十三

年間ニ十八回ノ大震アリ乃平均五年二ヶ月毎ニ一回ノ大震アリシ割合ナリ徳川氏ノ時代ハ記録モ完全シ人畜家屋ノ損傷及ビ土地陥落セル等ノコアル時ハ諸大名ヨリ届出ヅベキ掟ナレバ記録ノ存ゼザルハ稀ナルベシ去レバ過ル徳川氏治世三百年間ニハ地震ノ統計表ヲ作ル其材料ニ乏シキ憂ハ無クレバ上ニ掲ゲタル徳川治世中ノ大地震ノ起ル平均年數ハ正シキ者ト見テ可ナルベシ

茲ニ注目スベキハ本表中十七世紀ヨリ十九世紀ニ至ル三世紀問單ニ地大ニ震フトノ記事アル者即チ強震數ノ少キコト是ナリ地震史ハ余ノ目下調査中ニシテ未ダ完全セザルニ依ル蓋シ悉皆完成スル上ハ其數ノ夥シク増加スベキハ論ヲ待タザルナリ尤モ人畜家屋ノ損傷アリシ如キ大地震ニ至テハ粗々調査ヲ了ヘタレバ其數ニハ大差ヲ生ゼザルベシ

第二表(表密ス)ノ日本大地震數ノ國別表ヲ閱スルニ第一注目スベキハ人文ノ開ケタル所ハ其度數ノ多キコト是ナリ此前ニ述ベシ者ト同ク文物ノ開ケシ所ハ隨テ其記録ノ多キコト是ナリ例ヘハ人畜家屋ノ損傷土地ノ陥落アリシ大地震ニシテ山城國ニハ三十八、大和ニハ十五、攝津ニハ九、相摸ニハ十五武藏ニハ十アリ山城ニ斯ク地震數ノ多キハ古來ヨリ京都ニ帝都アリ記録ノ最モ完全セシニ依ルナリ大和及攝津ニ帝都ヲ置カレ

シ事モアリ大和ニハ奈良アリ攝津ニハ難波アリ是皆一時ハ文學ノ中心ナリシ時代アリシノミナラズ兩國トモ京都ハ接近セシ所ナレバ其記録ノ多キハ論ヲ俟タズ

又源賴朝ノ霸府ヲ鎌倉ニ開キシニヨリ北條氏時代ニハ鎌倉ニ多ク地震アリシヲ載ス其以前ニハ地震ノ記録ヲ見ルコト少ナシ是ト同シク徳川氏霸業ヲ江戸ニ定メシヨリ以來江戸ニ多ク地震アリ而シテ夫ヨリ以前ニハ之ヲ見ルコト稀ナリ其理由ハ前ニ述ベシト同シ

又之レニ反シテ文學ノ開クザル僻遠ノ國ハ自然歴史モ具ハラザル故ニ地震數モ或ハ少シト思ハル

第二表ニテ此クノ如ク國別シテ見ルニ各國ニ於テ地震數ノ寧ロ少キノ感アリ是ハ記録ノ缺乏ニ伴フテ實際ヨリ少キニ相違ナシ然シ是我多年蒐集セシ材料ヨリ作りシ者ニシテ出來得ル丈巨細ニ取調ベシ者ナリ

今年四月以來震災豫防調査會ニ於テ猶今迄取調ベシ者ヲ完全スル目的ヲ以テ更ニ充分材料ヲ蒐集スルコトニ着手シ嘗テ太政官ノ修史館ニテ編成セラレシ編年史料及ビ古記録ヨリ採萃スルコトニ着手シ嘗テ修史館ニテ編纂ニ從事セシ田山實氏ハ之ヲ擔任シ目下專ラ編纂中ナレハ此等ノ材料ノ悉ク蒐集スルニ於テハ餘程詳密ナル地震史ヲ作ラルベシト思フ既ニ本表中ニモ

其既ニ採萃ヲ了シタル者ハ採録セリ然レモ右ハ大成ノ後ノコトニテ先今日ニ在テハ此表ヲ以テ満足セザルヲ得ズ

古來大地震中最モ損害ノ著シク且ツ震域ノ廣キモノハ前後四回アリシ如シ第一ハ天武天皇十三年十月二十日(西曆六百八十五年)土佐、伊豫ヨリ東ノ方伊豆國ニ涉リシ大震ニシテ夫ノ土佐ノ國田園五十四萬頃沒シテ海ト爲ルトノ記事アル者はナリ尤モ之レハ大古ノ事ニシテアレバ記録全カラズ其詳細ヲ知ルニ由ナシ第二ハ明應七年八月十九日(西曆千四百九十八年)大和、伊勢、紀伊ヨリ甲斐、駿河、參河、遠江、伊豆、安房ヲ經テ遠ク奥羽ニ至ル此時ハ諸國ニ海嘯ヲ起シテ其害ヲ被ル者無數ナリ第三ハ寶永四年十月四日(西曆千七百〇七年)四國ヨリ五畿内東海道ヲ震動シ遠ク關東ニ及ブ且ツ海嘯ヲ起シ土佐、攝津等最モ損害ヲ被ル人畜ノ死傷家屋ノ損害等モ實ニ夥ダシカリシナリ土佐須崎ノ地陷落シ夫ノ東海道遠州新居關所ノ近傍ニテ海岸ノ地ハ隆起シ關所ノ位置ヲ變換セリ又有名ナル伊能忠敬ガ此地震ノ爲メ日本ノ全體ヨリ云ヘバ東ニ面スル海岸ハ隆起シ西ニ面スル海岸ハ沈降セリト云ヒシモ此時ナリ第四ハ安政元年十一月四日(西曆千八百五十四年)ノ大震ニシテ其震域ハ寶永四年ノ地震ニ頗ル能ク似タリ但シ其損害ハ寶永四年ノ方甚シカリシ者ノ如シ其震域ハ四國ヨリ紀伊、

伊賀、伊勢、攝津ヲ經テ遠ク東海道諸國遠江、三河、駿河ニ至リ又伊豆下田ニ於テハ激シク海嘯ヲ被レリ
 安政二年江戸ノ大震ハ都會ノ地ニ起リシヲ以テ死人ノ數ハ七千人ニ及ビ最能ク人口ニ喰炙シタル者ナリ然レモ其震域廣カラズシテ僅カニ江戸近郷ヲ出デス又去ル明治二十四年濃尾ノ大震モ其損害大ナリシニ相違ナキモ震域ハ首トシテ濃尾兩國ニ止マレリ右ノ江戸及ビ濃尾ノ地震ヲ以テ世人ハ我邦ニテ最モ激烈ナル地災ナリト思フ者アルベシト雖モ前記ノ四大震ニ比スレバ甚ダ小ナリト謂ハザルヲ得ズ右等ノ地震ノ事ニ付テ詳細ニ述ブレバ時間ヲ要スルヲ以テ茲ニハ略シテ云ハズ

江戸建府以來大地震略記

家屋ノ大破壊人畜ノ損害アル者	多少家屋ノ破損アルモ人命ニ恙ナキ者	單ニ地大ニ動クトアル者
寛永四年正月廿一日大地震城內大破人多ク死ス 1627		
正保四年五月十三日及十四日大地震武家屋敷市中大破勝テ數フ可カラス 1647		寛永十年正月二日小田原大震ニ付地大ニ震フ諸侯登城 1633

慶安二年六月廿日大地震屋顛倒死傷多シ 1646	慶安元年四月廿二日關東大地震江戸ニテハ屋根瓦落チ土藏煉塀半分通り碎ケ倒ル 1648	慶安二年六月廿日大地震	慶安元年四月廿二日關東大地震江戸ニテハ屋根瓦落チ土藏煉塀半分通り碎ケ倒ル 1648
慶安三年三月廿三日關東大地震江戸火之見櫓數ヶ所顛覆シ死亡頗ル多シ 1650	寛文十一年五月晦日大地震震所々破損怪我人アリ 1671	慶安三年三月廿三日關東大地震江戸火之見櫓數ヶ所顛覆シ死亡頗ル多シ 1650	寛文十一年五月晦日大地震震所々破損怪我人アリ 1671
元祿十六年十一月廿二日江戸大地震城內市中大破損死亡四千三百餘人アリ 1683	寶永四年十月四日東海道筋大地震江戸モ海邊ニハ破損アリ市街ハ強ク動ク 1707	元祿十六年十一月廿二日江戸大地震城內市中大破損死亡四千三百餘人アリ 1683	寶永四年十月四日東海道筋大地震江戸モ海邊ニハ破損アリ市街ハ強ク動ク 1707
寶永三年九月十五日江戸大地震破損夥シク死傷多シ山ノ手邊ハ殊ニ強シ 1703	寶永四年十一月廿三日富士山破裂灰降ル江戸強キ地震アリ 1707	寶永三年九月十五日江戸大地震破損夥シク死傷多シ山ノ手邊ハ殊ニ強シ 1703	寶永四年十一月廿三日富士山破裂灰降ル江戸強キ地震アリ 1707
	天明二年七月十四日及十五日大地震家屋ノ損害甚シ 1782		天明二年七月十四日及十五日大地震家屋ノ損害甚シ 1782
	明和八年五月二日并ニ六月二日地大ニ震フ死傷ナシ 1771		明和八年五月二日并ニ六月二日地大ニ震フ死傷ナシ 1771
		元祿九年六月十九日地大ニ震フ 1696	元祿九年六月十九日地大ニ震フ 1696

			天明三年二月二日地大ニ震フ 1783
			天明三年七月四日淺間噴火江戸地大ニ震フ 1783
			寛政六年十一月三日地大ニ震フ 1794
			文化九年十一月四日地大ニ震フ 1819
安政二年十月二日大地震 家屋ノ破壊夥シク死人七千人或曰ク一萬餘人 1825			
合計 七回 平均	合計 四回 平均		
三十八年ニ付一回ノ割合	六十六年半ニ付一回ノ割合		
平均 二十四年ニ付一回ノ割合	合計 十一回		

寛永四年ヨリ本年迄ハ二百六十六年ナリ表中ノ平均數ハ之ヨリ計算セリ

因ニ云フ安政二年ヨリ本年(明治廿六年)迄ハ丁度三十八年ナリ